

ジブチ気候変動対応事業—ジブチの森プロジェクト

対象国・地域	ジブチ共和国
事業概要 (経緯・背景)	<p>ジブチはアフリカ北東部の紅海沿岸に位置する小さな国で、夏には気温が 50 度を超えることもある、非常に暑い国です。国土の多くが砂漠や乾燥地帯で、厳しい自然環境の中で人々が暮らしています。近年、気候変動の影響により、熱中症の増加や家畜被害、水不足や農作物の減少などが深刻化しています。さらに、海面上昇や暴風雨による被害も発生し、人々の暮らしや食料の確保に大きな影響を及ぼしています。また、ジブチは食料の多くを輸入に頼っており、失業率も高いことから、生活が不安定な人が少なくありません。周辺国からの難民の受け入れも続いており、地域社会への支援が重要な課題となっています。</p> <p>こうした状況を踏まえ、日本赤十字社は 2025 年 7 月からジブチ赤新月社が主体となっていく、気候変動に強い生計基盤の構築を目指した 3 か年の事業を開始しました。本事業は、気候変動による猛暑や環境リスクに直面する地域において、学校やコミュニティでの環境保全・防災に関する学びと行動を促進し、環境の改善・修復を通じて、地域の暮らしと地球環境の両方を守る持続可能な地域づくりを推進します。</p>
事業期間	2025 年 7 月 1 日～2028 年 6 月 30 日（3 か年事業）
場所・対象	<p>ジブチ共和国 ジブチ市、オボック州、ディキル州</p> 
目的 (上位目標)	持続可能な農業とエネルギー、環境保全、食料支援を通じて、コミュニティの人びとの気候変動対応力と生計の安定を図る。
事業目標	<p>目標 1 地域と学校での環境意識向上と参加促進</p> <p>目標 2 気候変動に強い農業と暮らしの支援</p> <p>目標 3 環境保全と持続可能な地域づくり</p>
成果	<p>成果 1 地域の人たちや子どもたちが、気候変動や環境について学び、話し合い、清掃活動などに参加する機会が提供され、地域を自分たちで良くしていこうとする意識が高められる。</p>

	<p>成果2 地域の人たちが気候変動に対応した農業や家庭菜園を学び、必要な道具や水の支援を受けることで、食べ物を安定して確保できるようになり、安心した暮らしが実現される。</p> <p>成果3 地域や学校が中心となって植林や清掃、土地の再生活動を進め、自然を守りながら環境にやさしく暮らせる地域づくりが進められる。</p>
活動内容	<p>1. 学校での教育及び取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 赤十字クラブの設立（2校） 赤十字クラブによる植樹（100本） 学校の掃除道具を整備（10セット） 気候変動への意識変容セッションの実施（4回、200人） <p>2. コミュニティの対応力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> クリーンアップキャンペーンの実施（4回、200人） 環境保護・修復にかかるセッションの実施（4回、150人） 家庭菜園セッションの実施（6回、100世帯） 害虫の侵入等の外的要因に関する知識を取得（220人） <p>3. 地域全体の環境改善・修復</p> <ul style="list-style-type: none"> 植樹（グリーンベルトの設置）（15,000本） 農業用道具の整備（100セット） 調理用ストーブの調達（400台） 太陽光発電による貯水タンクの導入（6機、3,000人） <p>4. ジブチ赤新月社の組織強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティアの養成 ユースボランティアの養成（赤十字クラブの設立2校）
事業費総額	約 5,080 万円（3 年間）
写真	<div>   </div> <p>赤十字クラブの学生たち</p> <p>家庭菜園活動の見本となる農園</p>